



イメージパースは実際と異なる場合があります。

1 全体コンセプト

「街なかスタジアム」の実現

1. 開かれた回遊型スタジアムパーク

中央公園全体の空間づくりとして、広島城や旧広島市民球場跡地とペDESTリアンデッキでつながり、本川（旧太田川）の水辺空間との連携を行うことで、新たな回遊空間を生み出し、紙屋町・八丁堀地区ともつながる、にぎわいのある開かれた「街なかスタジアム」を実現する。

みんなでつくるサッカースタジアムの実現

2. スタジアムパークがつなぐ『交歓の環』

スタジアムの多機能化と広場エリアの複合化との連携を図り、多様な世代・属性の方が新たに集う場となることで、『交歓の環』を広げ、「みんなでつくるサッカースタジアム」を実現する。

広島らしさの発信

3. みんなのシンボルとなる『希望の翼』

スタジアムを柔らかく包み込むような「翼」をモチーフにした大屋根と、広島歴史ある都市景観に配慮し、水平線を強調したファサードによる、新たな「広島らしさ」を発信する。

2 全体整備方針

サッカースタジアム

- 約30,000席を確保し、天然芝のフィールドとする。明確なエリア設定・セキュリティ機能により、Jリーグやアマチュアだけでなく国際試合の開催にも対応可能とする。サッカーでの利用がメインとなるが、スポーツイベント(ラグビー・スポーツ教室・ヨガ教室等)などにも対応できる複合的な機能を併せ持つ施設とする。

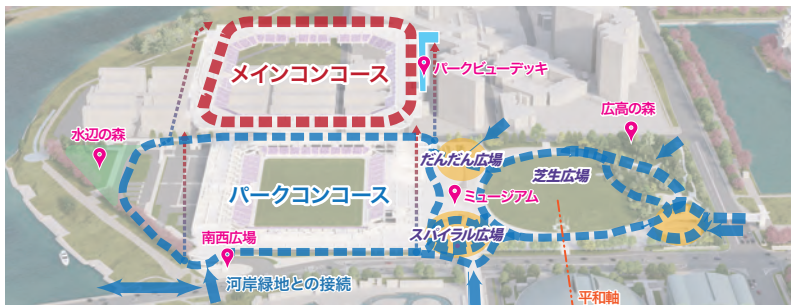
また、防災備蓄倉庫等を整備し、災害時の避難者や帰宅困難者等の受け入れに対応可能な計画とする。

広場エリア・ペDESTリアンデッキ

- 広場は平和軸を尊重した園路形状（ピースリンク）や植栽配置などにより、広島歴史を次世代へとつなぐデザインとする。

また、中央公園広場は、地震、大雨洪水及び大規模な火災等の際の指定緊急避難場所として防災機能を有する。

- 南側の平和記念公園や東側の広島城などの周辺施設をつなぐ動線を確保するための各箇所にはペDESTリアンデッキを新設し、地域の回遊性の向上を図る。



スタジアムと広場をつなぐダブルコンコース(コンコースを2層化)による遊覧構造

主な特徴

【大きくまちに開かれたスタジアム】

新スタジアムは南東、南西側に大きな開口を持ち、周囲に開く形態により、にぎわいを街に向けて発信する。

【誰もが快適に安心して楽しめる観戦環境】

多様な観客席、企画席をスタジアム全体に設け、様々なサッカーファンに楽しい観戦スタイルを提供する。車いす使用者、障害者、高齢者、子供連れ利用者が安心して楽しめる観戦環境を整備する。

【次世代観戦環境を実現する設備】

指向性の高いスピーカーによる音響環境、国際水準の均斉度を誇る照明計画、情報設備インフラに対応する。

【回遊型スタジアムパーク】

コンコースを2層化することで、利用者・市民の回遊性を高める。スタジアム2階の「パークコンコース」は、日常的に市民が楽しむ動線とし、3階の幅10mの「メインコンコース」は、試合時には周回が可能な観客のメイン動線となる。

【開放的で軽やかな屋根】

シンボルとなる屋根は、「三矢の教え」をモチーフに矢を放つ弓のような張弦構造を採用し、開放感のある翼のような形態とする。

3 整備計画概要

敷地概要

所在地：広島県広島市中区基町15(中央公園広場)ほか
敷地面積：中央公園広場全体:約85,600㎡

A-1 サッカースタジアム

概要:約3万席のサッカースタジアムを整備

- ・主要用途 サッカースタジアム(屋外観覧場)
- ・敷地概要 敷地面積 約49,900㎡
- ・建物概要 建築面積 約26,700㎡
- 延べ床面積 約60,000㎡
- 階数 地上7階
- 最高高さ 約42m
- ・駐車場等 駐車場台数 約240台
- バイク置場 約300台
- ・構造 鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造
- スタンド:PCa段床
- 屋根:ガルバリウム鋼板フッ素樹脂塗装
- 基礎種別:杭基礎(既製杭)
- ・座席数 約30,000席(車いす席300席)
- ・コンコース 2階・3階とも幅員約10m(一部約8m)

A-2 広場エリア(基盤整備)

概要:スタジアムを除く公園区域の東側及び西側に芝生広場を中心とした広場の基盤を整備

- ・整備面積 約35,700㎡
- ・芝生広場面積 約12,000㎡
- ・園路幅員 6m以上(メイン園路)
- 8m(ペDESTリアンデッキからの動線部)
- ・舗装仕上 透水性脱色アスファルト、ウッドチップ敷き等

- ・防災公園 広島市地域防災計画に基づく指定緊急避難場所
- ・地盤レベル 広場中心部の地盤レベル T.P.+4.4m超
- ・その他整備事項 ビオトープドライミストの整備等

A-3 北側市道(中1区88号線)

概要:幅員4mの歩道を整備

B 東側ペDESTリアンデッキ

概要:国道54号を横断するペDESTリアンデッキを整備

- ・有効幅員 8m(東側)、4m(北側)
- ・桁下高さ 5m以上
- ・整備項目 階段、スロープ、E V

C 南側ペDESTリアンデッキ

概要:中1区中広宇品線(城南通り)を横断するペDESTリアンデッキを整備

- ・有効幅員 10m
- ・桁下高さ 5m以上
- ・整備項目 階段、スロープ、E V

D 駐輪場

概要:約2,500㎡の自転車駐輪場を整備

E 園路(ファミリープール東側歩道)

概要:幅員6m以上の進入路及び幅員2.5m以上の歩道を整備

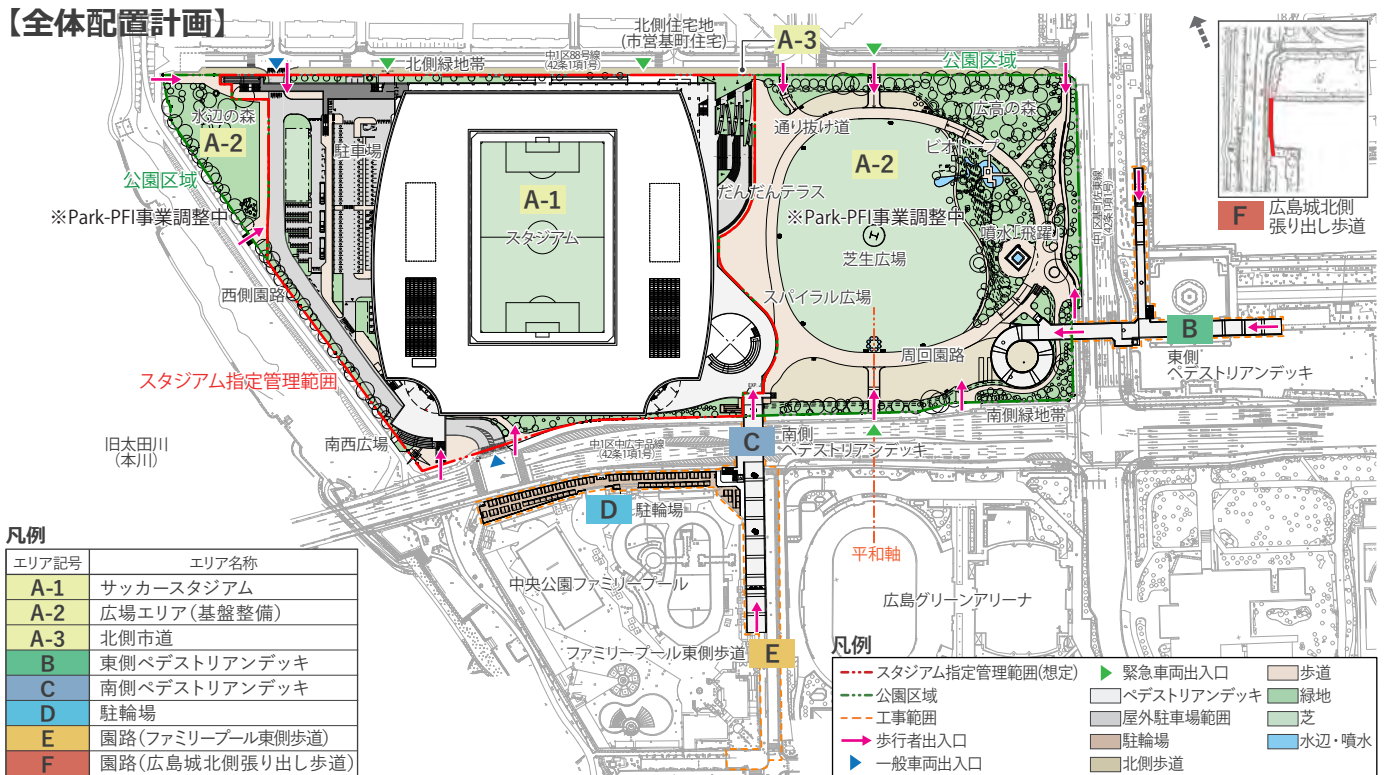
F 園路(広島城北側張り出し歩道)

概要:幅員4mの歩道を整備

その他:渝華園(移築)

概要:既存建築物の移築

【全体配置計画】



※基本設計時の計画であり、関係機関や広場エリアのにぎわい施設を整備するPark-PFI事業者との協議などにより変更となる場合があります。

6 ユニバーサルデザイン計画

基本的な考え方

- ユニバーサルデザインに配慮し、あらゆる人たち(車いす使用者、視覚障害者、聴覚障害者、知的、精神、発達障害者等、子供連れ利用者、LGBTQ、高齢者、外国人利用者)が使いやすい施設を目指す。
- 主要公共交通機関や紙屋町等都心部等の周辺から敷地までのアクセシブルルートに連携したアクセスを形成する。
- 広場と東側ペDESTリアンデッキ、広場とスタジアム2階をつなぐスロープやエレベーターを設け、スタジアム2階各ゲート及び総合案内所へ円滑に誘導する。
- スタジアム内に授乳室、休憩室、救護室を分散配置する。
- スタジアムコンコースは、混雑時にも待機列により通路が塞がれることがなく安全に移動できるように、十分な幅員を確保する。
- 様々な利用者を想定したバリアフリートイレをバランスよく配置する。

スタジアムへのアプローチ

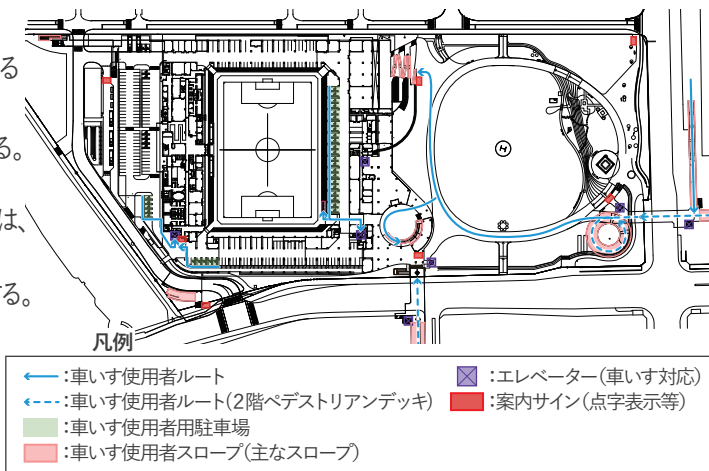
- スタジアム周辺、広場から各スタジアムゲート等までのアプローチは、段差のない計画とする。
- 4隅のスタジアムゲート付近に、緩やかな階段及びスロープを設置する。
- 来場者数が多いと想定されるスタジアムの南側に大型エレベーターを集中配置し、車いす使用者などの利便性に配慮する。

スタジアム内の移動

- 屋外動線及び屋内動線は、利用者にとって機能的で分かりやすく、安全性を確保するとともに、バリアフリーやユニバーサルデザインの視点に配慮した計画とする。

快適な観戦環境

- 車いす使用者席及び同伴者席は、水平・垂直的に分散して配置し、車いす使用者が様々なエリアから観戦できる環境を整備する。
- 3階スタンドの複数エリアに集団補聴設備を利用できる観客席を900席以上設ける。
- メインスタンドの4階にセンサリールームを設ける。心身状況の変化により休息及び休憩が必要となる場合に備え、カームダウンスペースを設置し、同伴者とともに利用できる専用トイレを併設する。



メインコンコースから段差なくアクセスできる車いす使用者観客席（3階）イメージ

7 防災・避難計画

発災時における対応

- スタジアムと広場が一体で、緊急避難場所として洪水や高潮などの風水害、地震、大火に対応し、発災から概ね3日間の避難者受入れ場所として整備を行う。

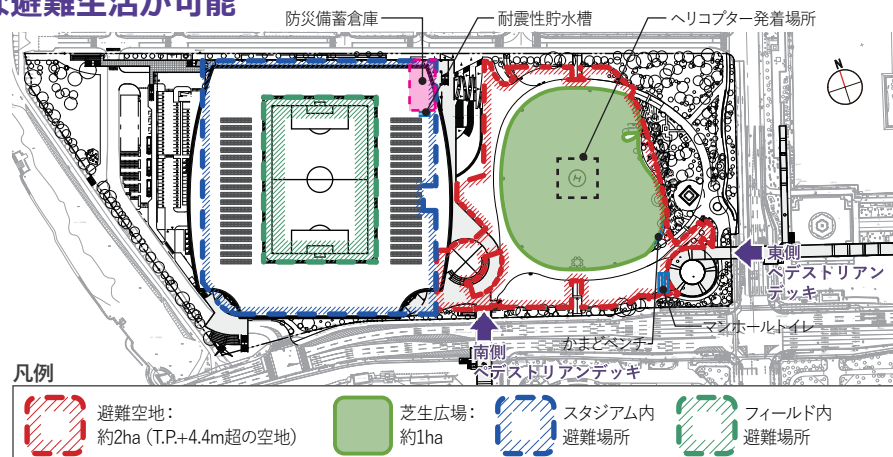
BCP対応統合型 BEMS※によるレジリエンス強化

- 災害時に予想される必要使用量を情報表示できる「エネルギー管理システム」を導入する。
- 停電時に高機能BEMS※からBCPモードへ自動移行し、受水槽や排水槽の残容量管理を行う。

※ビルエネルギー管理システム(Building Energy Management System)の略称

インフラ途絶時も72時間の安全な避難生活が可能

給水	・上水系統の受水槽に緊急遮断弁を設け、給水管破裂による水源喪失防止 ・受水槽近傍まで給水車が寄り付き、市水本管途絶時に給水可能
雑用水	・雑用水は雨水貯留槽から災害時にも継続して利用が可能
電力	・常用・非常用発電機による72時間運転
避難	・サイネージに避難経路を表示し、聴覚障害者も安全に避難が可能
トイレ	・インフラ途絶時に避難者が3日間トイレの利用が可能 ・マンホールトイレの整備
ガス	・ガス設備は大地震に十分耐えられる中圧ガスを引込む
浸水冠水	・電気、発電機室は2階に設置し、機能停止を防止 ・1FLをTP+4.4m超とし、浸水に対応したレベル設定
EV	・火報連動、非常用電源に接続した避難用東側EVにより災害時も利用可能



8 広場エリア・ペDESTリアンデッキ

防災や環境に配慮した次世代の都市公園

A 芝生広場

- 東側広場中央に広大な天然芝エリアを設け、市民の憩いから多様なイベントまで幅広いニーズに対応する。

B スパイラル広場

- 立体的に構成し、人を迎えるにぎわいの玄関とする。
- スロープ・階段・ミュージアムエントランスで構成する。



広大な芝生を中心とした交流・イベントの場



にぎわいの核となるスパイラル広場

C 広高の森

- 木々の木漏れ日がそぞろ、くつろぎの場と散策路を整備。葉音や鳥のさえずりが響く森と湿性の草花が咲く水辺など、豊かな自然に包まれ、心身共リフレッシュ出来る空間を創出する。

D だんだんテラス

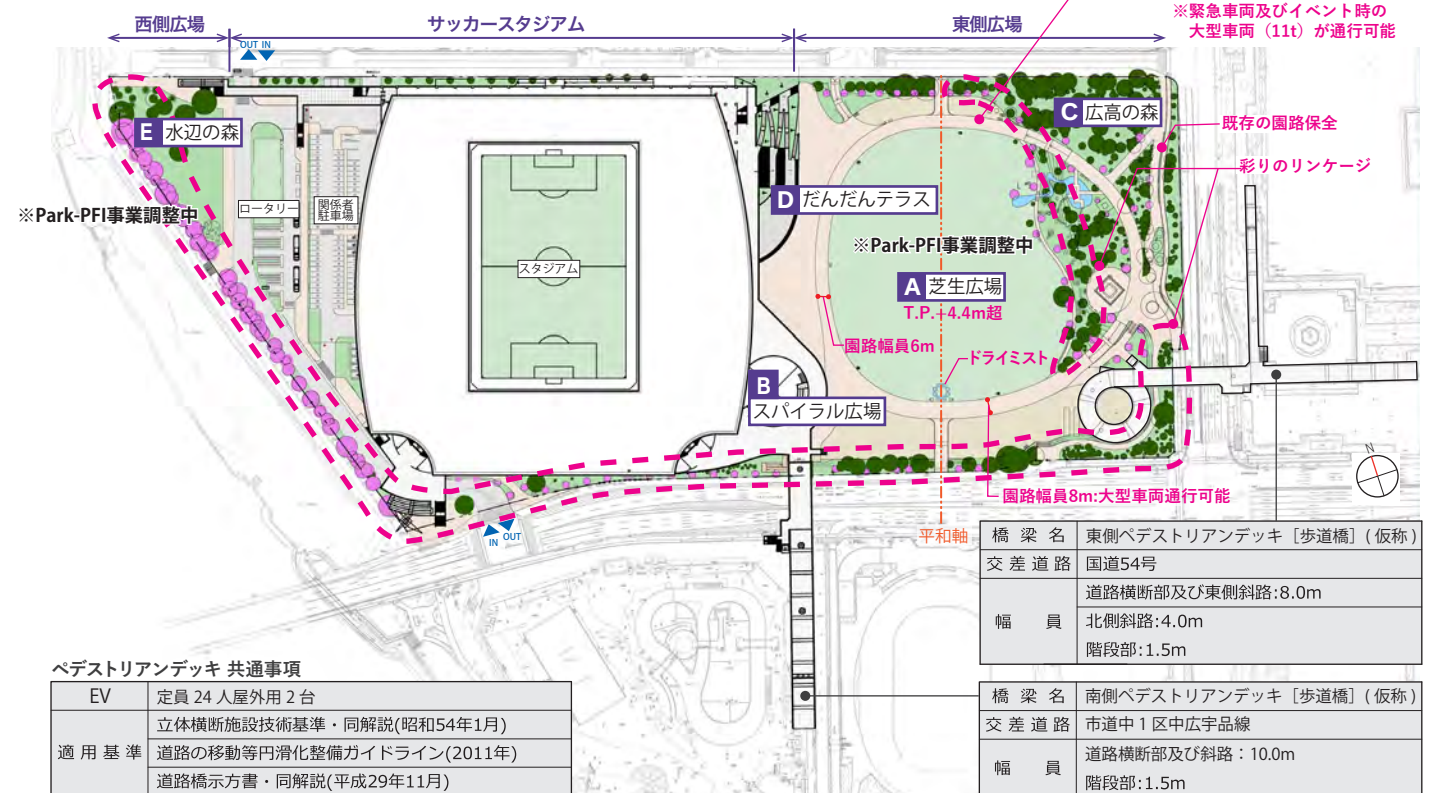
- 広場を一望し、くつろげる段々状の丘とする。
- 丘の中腹に多機能化施設やオープンテラスを配置する。



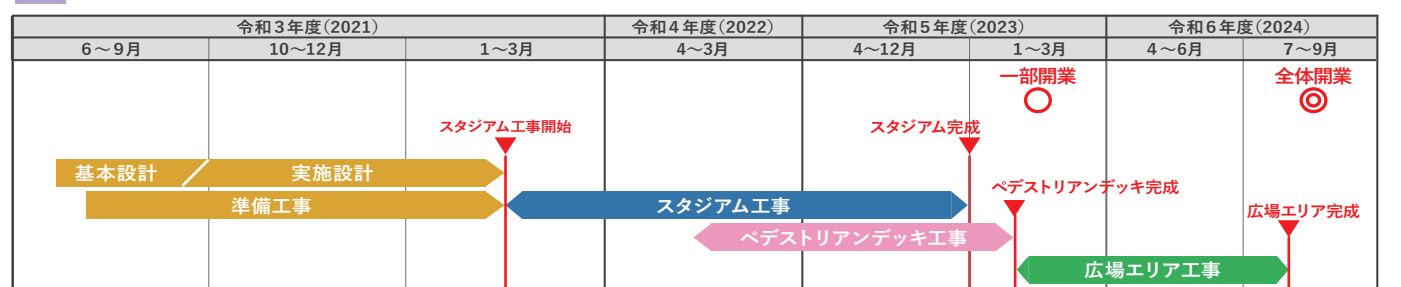
にぎわいを生み出す段々状のテラス

E 水辺の森

- スタジアム西側のPark-PFI施設用地に「水辺の森」を計画し、本川沿いの親水空間とつながる憩いの場とする。
- 国土交通省が構想している基町環境護岸の整備構想と連携し、SUPヨガなどのウォータースポーツが楽しめるとともに、来園者が木陰で休むなど、ゆったりした時間を過ごすことのできる空間を創出する。



9 今後のスケジュール（予定）



※基本設計時の計画であり、関係機関や広場エリアのにぎわい施設を整備するPark-PFI事業者との協議などにより変更となる場合があります。